

平成25年度事務事業評価シート		該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)		
		一般事務	公共建設事業	評価対象外事業
事務事業名	県営ため池等整備事業			
予算科目	6 款 1 項 14 目			
総合計画での位置付け	産業の振興～もりもり元気なしごとづくり 産業の振興			
所管課情報	担当課:	農林水産課	電話番号(内線):	0
記入者情報	所属長:	米井 司	担当責任者:	角田 栄治
実施期間	【開始年度】 平成 年度 【開始年度】 設定なし			
事業の対象	受益面積10ha(中山間地域は5ha以上)の農用地の災害発生の防止等必要なため池			
事業の必要性	老朽化ため池を整備することにより、農業用水の安定的な確保と災害の未然防止が図られる。			
施工方法、場所	【施工方法】	県営	【施工場所】	伊予市上吾川地内
運営方法	【運営方法】		【運営費(予定)】	
事業の目的	県営ため池等整備事業の対象となる老朽化ため池について、県営事業で改修工事を実施し、農業用水の安定的な確保と災害の未然防止に努める。			
事業の内容	県営ため池等整備事業に伴う県営事業費負担金及び愛媛県事業団体連合会、伊予市伊予郡土地改良協議会への負担金支出(古泉池)			
改善策の具体的取り組み(当初)	地元関係者及び県との調整をとりながら、円滑な事業推進を図る。			
改善策の具体的取り組み				

事業費及び財源内訳							
項目	24年度決算	25年度予算	9月末の執行状況	25年度決算			
事業費	直接事業費	13,073	4,076	0	4,017		
	人件費	3,439	3,498	1,708	3,498		
	合計	0	7,574	1,708	7,515		
人件費内訳	人工数	0.43	0.43	0.21	0.43		
	人件費単価	7,999	8,135	8,135	8,135		
	補助事業人件費	0	0	0	0		
	人件費	3,439	3,498	1,708	3,498		
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	地方債	0	0	0	0		
	その他	2,730	1,400	0	1,400		
	一般財源	13,782	6,174	1,708	6,115		
実施スケジュール							
項目	24年度以前	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度以降
業務委託	13,076		5,000			5,000	
事業負担	74,208	4,017	12,500	12,500	12,500	12,500	12,500
年度別事業費	87,284	4,017	17,500	12,500	12,500	17,500	12,500
財源	国・県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源	87,284	4,017	17,500	12,500	12,500	17,500
国・県支出金等名称							0

成果指標				
成果指標	県営ため池整備数÷県営ため池整備可能数×100			
指標設定の考え方	県営ため池整備可能数に対する県営ため池整備数の割合を上げることが、農業用水の安定的確保及び災害の未然防止が図られることになる。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目標	38.6%	-	-	38.6%
実績	-	-	-	-

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	ため池の改修は耐震診断等を考慮し、防災の面からも改修を実施していく必要があるが、受益者負担金率の見直しを検討する必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	老朽ため池を全面改修するため当事業で実施しているが、事業費が多額になり受益者負担が課題となっている。ため池の改修にあたっては、防災・減災にもつながることからも受益者負担割合の見直しを検討する必要がある。土捨て場の確保については、中予地方局管内全体で取り組める体制づくりが必要である。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題